



このページは読者の皆さんからの
声にふれあう場です。
いろいろな声をお寄せください。

大好きな串間

● MOKOさん

高校を卒業します。先生方や友だちに恵まれて、とても充実した楽しい3年間を過ごすことができました。

お母さん、弁当作りたいへんができました。ありがとう。部活動も小学校から両親のおかげでずっと続けてきました。本当にありがとうございますとう！ 4月から進学のため串間を離れ一人暮らしが始まっています。今、期待と不安でいっぱいです。一番の悩みは自炊です。やれるかな？

大好きな串間は豊かな自然とおいしい海・山の幸に恵まれ、温暖でとても住みやすい町だと思います。しかし、教育面で進学は通学できる範囲内での学校選択が難しいです。家から通学できればいいのにと思います。これから高額な学費と生活費

が必要になり、両親の経済的負担はたいへんなものになります。無駄にしないよう資格取得のため精いっぱい頑張つてゆきたいと思います。

卒業後はもちろん串間に戻りたいです。その時就職できることを願っています。

卒業、そして旅立ちの季節。MOKOさんも新しい環境での生活・進学とたいへんですが頑張つてください。資格取得して卒業したら、ぜひ大好きな串間に戻ってきてくださいね。

カラオケ喫茶「昭和の歌」

● 福岡県・ハラちゃん

本城の方にいとこがいるため、年に2、3回串間の方に遊びに行きます。特に本城のいこいの里のお湯が気に入っています。全国あつこつちの温泉め

ぐりをしていますが、ここのお湯は全国でもベスト3に入りましたね。また、地元の方がうらやましく思います。

それともう一つすばらしいところがあります串間には…。わたしは大のカラオケファンですが、串間駅前にあるカラオケ喫茶「昭和の歌」は九州ではNo.1に入るでしょう。なにがすばらしいか、取材に行く価値があると思いますが、ぜひこの紙上で紹介されたらしいのでは。

美人湯としてその泉質の評価が高い串間温泉いこいの里。ハラちゃんさんにも気に入っています。ただけたようですね。

また、カラオケ喫茶「昭和の歌」もお気に入りのこと。その魅力は行ってみなければ分らないようです。興味のある方は一度訪れてみてはいかがでしょうか。

県広報コンクール 特選おめでとうございます

● 川井富士男さん

県広報コンクール広報紙部門、特選おめでとうございます。

過去、自治体コンクール、広報紙部門にて全国1位になっています。その時と見比べてみると、表紙のイメージは都井岬の馬を背景にした方が良かったのではないでしようか（この時は2部門で県の広報コンクール特選）？ 野生馬の写真の一枚は夜の馬の写真も良かったのではないかでしようか？

秋の市民まつりP.16。恋ヶ浦の風景も良かった気がします。

これからも12月号の企画作りで取り上げてほしいのは古代ロマンまたはミニトと外国貿易。

①玉壁と古墳。②秋月・島津の歴史（野辺）。③幸島の猿。④本城口広の里山物語。⑤赤池渓谷。⑥石波海岸とサーフィン⑦都市から移住ミュージシャン。⑧山菜と薬草。⑨鳥と山幸物語（アカシヨウビン、サンコウウチヨウ）。⑩アジサイロード物語（黒原正宏氏）。⑪神楽と串間物語。以上盛りだくさんでしたが串間を全国にPRするためにも頑張つてください（企画は早めに、

時間がかけた取材を）。おめでとう。これからも楽しめています。

串間のうまいもん ありがとうございます

● 大阪府・野辺照代さん

先日、内野水産のうまいもんが届きました。本当にびっくりしました。たくさん入っており少しづつ串間の味を楽しみたいと思います。ありがとう。

わたしたちは主人の母が串間に眠っているため、毎年4月に

市民 懇意

わたくしたちは、
1. 豊かな自然を大切にし、これをいからしめましょう。
1. お互いを信じ、心をあわせ、平和で明るいまちをつくりましょう。
1. 健康で働くことに誇りをもち、豊かな住みよいまちをつくりましょう。

◎市の木／そでつ ◎市の花／かんな
◎市の鳥／めじろ ◎市の花木／山桜
◎人口 20,635人（前月比-23）
男 9,473人 女 11,162人
世帯数 8,747世帯
(平成22年3月1日現在)

今年度の「串間のよかむん味だより・冬の便」を利用した際のアンケートに回答すると、抽選で内野水産の海産物セットが当たること。野辺さんは見事当選したようですね。おめでとうございます。また、串間に帰省された際にも、串間のうまいもんをたくさん味わってくださいね。

大坂の方は、100円バスといつて赤いバスが本通りじやない小さな道を走っており、老人の人たちが喜んで乗つておりまます。串間のバスをどんどん利用して車の数を少なくしてほしいです。車の数が多すぎます。

田畠へ向かう毎日でした。負けず嫌いの父は何もかもトップを目指す人でした。田植え、稻刈り、ほかの人より遅いと不機嫌になりとっても困り者でした。

牛や馬を大事にする時代でしたし、あのころは品評会と言つていていたように思います。馬・牛の手入れ、いつも牛・馬を優しくなぜながらピカピカに磨き、満足げな父の横顔を思い出します。

母を思うとき、頑固で怒りっぽく四角四面なそんな父。そんな父のどこが良かつたんだろうと分からなくなることたぶたびでした。そんな父に文句ひとつ言わず、わたしたち6人の子どもには優しく接してくれ、そんな強くて優しい母がわたしは大好きでした。

お酒の大好きな父は、ちびりちびりと飲みながら愚痴をこぼし、母もおつき合いがたいへんだったと思います。でも今思う時、現代のように楽しみもまた娯楽もなく、母と向き合ふそんな時間が一番安らげる時間だつたのかもしれません。

でも、反面、とっても優しく子煩惱な一面ものぞかせてくれました。幼いころ、わたしは風邪をひきやすく、せきが止まら

亡き父へ送る バレンタインデーチョコ

● 松野修子さん

年を重ねるごとに亡き父のことを思つて多くなりました。幼いころのわたしはどうしても父を好きになれませんでした。毎日毎日働くだけの父。食事が済むとケハンを巻き、地下足袋を